

## 教養教育について

### (1) 教養教育の概要

国際化・グローバル化さらに大学入学のユニバーサル化（希望する者全てが大学に入学できる）時代を迎えた今日、専門性のみ強調する大学教育から脱却するために、本学では「平和・自由・進歩」という建学の精神と「国際性豊かな人材の育成」という教育理念に基づき、「名桜大学型リベラルアーツ」を構築することになった。

リベラルアーツの基本理念は、人間の心を解放し、心を自由にすることによって円満な人格形成をすることにある。心を広く解放し、人文・社会・自然科学を幅広く学ぶことによって、学問分野の広い視点から俯瞰的にものを見ることのできる人材育成を目指す。リベラルアーツでもっとも強調されるのは、批判的な読書であり、批判的な思考であり、論理的な思考と論理的な判断である。さらには、文学や宗教など人文科学を学ぶことにより、感性を磨き、価値観、倫理観や人生観を確立できる。知性と感性のバランスこそ円満な人格にとって不可欠である。

本学では、このような「名桜大学型リベラルアーツ」に基づく教養教育の理念を確立し、それに基づいて教養教育のカリキュラムを構築し、学生諸君に提供することになった。

#### 1) 「学ぶスキル」を獲得、幅広い科目選択が可能

基礎的能力に加え、時代の変化に対応できる問題解決能力を備えた人材を育成するために、国際学群と人間健康学部にも所属する全学生を対象とした教養教育カリキュラムを構築した。特に、批判的思考及び論理的思考などの「学ぶスキル」を獲得するために、アカデミックスキル科目を必修科目として1年次に設定し、知性と感性のバランスが保たれるように幅広い科目（共通コア5科目区分24科目、共通選択5科目区分55科目）を設定した。

#### 2) 少人数教育体制の利点を最大限活用

問題発見・解決能力と優れたコミュニケーション能力、さらには学生の学ぶ意欲を引き出し、自ら学ぶ力を身につけさせるための教育方法として、チーム・ティーチング、学生主体の参画型教育・学習を積極的に導入した。大学生活に適応し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標としている「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」「コンピュータ・リテラシー」「アカデミックライティングⅠ」では、少人数教育を基本とし、かつ複数の科目担当者を配置する「チーム・ティーチング」を導入した。また、「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」では、学生主体による問題設定、情報収集、資料作成、発表会におけるディスカッション等を通じた積極的学習を実践し、「学生主体の参画型教育・学習」を実現した。

#### 3) 学生自らが社会人としての将来を構想し、実現できるキャリア形成

学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得する「ライフデザイン科目区分」を設定した。学長が自ら担当する「大学と人生」（1年次）は全学生の必修科目として配置した。さらに、教養教育や専門教育、キャリアガイダンス等のキャリア形成にかかわる教育プログラムの効率性と効果を議論する場として、全学的な連絡調整会議が行われている。

## (2) 教養教育の目標と科目区分紹介

【教養教育の目標】教養教育科目は、自由な発想のもと、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うとともに、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人を育成することを目標とする。

【教養教育の体系】教養教育のそれぞれの科目区分は、本学の建学の精神ならびに教育目標に基づき、次の通り体系化されている。

区分等		教育目標
名桜大学	教養教育科目	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法に基づき深く専門の学芸を教授研究し、幅広い知識を授け、世界の文化の進展と人類の平和に貢献しうる人材を育成することを目標とする。</p> <p>教養教育科目は、自由な発想のもと、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うとともに、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を備えた国際的教養人を育成することを目標とする。</p> <p>共通コア科目は、大学で学ぶことの意義について考えるとともに、市民的生活のために必要となる基盤を形成することを目標とする。</p>
		<p><b>アカデミックスキル</b></p> <p>アカデミックスキル科目は、大学生活に適應し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標とする。</p>
		<p><b>ライフデザイン</b></p> <p>ライフデザイン科目は、学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標とする。</p>
		<p><b>思想と論理</b></p> <p>思想と論理科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、批判的・論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目標とする。</p>
		<p><b>沖縄理解</b></p> <p>沖縄理解科目は、自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目標とする。</p>
		<p><b>健康スポーツ</b></p> <p>健康スポーツ科目は、健康・体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目標とする。</p>
		<p><b>共通選択科目</b></p> <p>共通選択科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、人間存在の成り立ちを基本から考察し、平和の価値についての理解を深め、目的実現のために主体的に行動し、国際化社会の中で問題解決能力を養うことを目標とする。</p>
		<p><b>外国語</b></p> <p>外国語科目は、グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目標とする。</p>
		<p><b>国際理解</b></p> <p>国際理解科目は、グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目標とする。</p>
		<p><b>人文科学</b></p> <p>人文科学科目は、人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目標とする。</p>
		<p><b>社会科学</b></p> <p>社会科学科目は、様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目標とする。</p>
		<p><b>自然科学</b></p> <p>自然科学科目は、自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目標とする。</p>

## 共通コア科目

【共通コア科目の目標】 共通コア科目は、大学で学ぶことの意義について考えるとともに、市民的生活のために必要となる基盤を形成することを目標とする。

### ■アカデミックスキル科目の目標と科目

【目標】 アカデミックスキル科目は、大学生活に適應し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目標とする。

【科目】 教養演習Ⅰ／教養演習Ⅱ／コンピュータ・リテラシー／アカデミックライティングⅠ／  
アカデミックライティングⅡ／アカデミックスキル特別講義

#### 授業紹介① 「教養演習Ⅰ」「教養演習Ⅱ」

教養演習は、これまで名桜大学が培ってきた教育方法を見直し、大学生としての学びの統合を図るため、さらに名桜大生としての資質の向上を視野に、新たに全学の共通必須科目として位置づけられた科目です。

教養演習は、教養教育のコアとなる科目であり、大学生に必要な豊かな教養と、専門教育の学習を支える幅広い知識の獲得や人格の形成を図るためのアカデミックスキルズの獲得を目標としています。

具体的な学習は、「教養演習Ⅰ」では、大学における履修についてのガイダンスをはじめ、テキストを使用して大学での受講の方法や学ぶことの意義、健康な生活の維持など、ディスカッションを通して学びます。「教養演習Ⅱ」では、これまで修得した知識や学びを活用して、幅広い分野からテーマを設定し、情報の収集、整理・まとめるというプロセスを通してレポートを作成します。論理力、批判力、統合力の育成、さらに成果発表を通してプレゼンテーションスキルの修得を図ります。

授業は少人数グループ学習（ゼミワーク）を基本とし、学習者が主体となる教育方法を取り入れます。また、ディスカッションを通して学生間の交流、人的ネットワークの構築を目指します。さらに、個別の学習支援、指導を行うことにより、自己の目標を明確にし、将来の人生設計を視野に入れた充実した大学生活が送れるための学びを進めます。

#### 授業紹介② 「アカデミックライティングⅠ」

大学では、様々な分野の専門書を読み、その内容をまとめ、自分の意見を書くことが求められます。また、アンケートや聞きとり調査などで得た事実や知識等を根拠に基づいて論理的・科学的にまとめることが求められます。そこで「アカデミックライティングⅠ」では、レポートを作成する際に必要な基礎的能力(検索力・引用力・読解力・分析力・文章作成力)を身につけます。

例えば、図書館やインターネット検索を利用し、レポートを書くための的確な情報を集め、整理する力をつけることが必要です。また、レポートのテーマや課題の目的を読みとり、課題を分析する力をつけることも必要です。そして、レポートを書くうえでの基本的なルール(出典の表記法、参考文献の表記法・スタイル)を身につけ、読む人にとってわかりやすく、根拠に基づいた、説得力のあるレポートを書く能力を身につけることも必要です。作文ではなく、レポートを書く力を身につけましょう。

### 授業紹介③ 「コンピュータ・リテラシー」

「リテラシー」とは読み書き能力のこと。現代社会ではコンピュータの操作能力は読み書き能力と同じように必要なものとなっています。大学生活においても同様です。情報を集め、データを分析し、わかりやすい資料を作る、という作業にはパソコンを使います。スムーズに大学生活をスタートするには、入学したらまずパソコンを使いこなせるようになることが大切です。

名桜大学のアカデミックスキル科目「コンピュータ・リテラシー」では、1年次の前期、学生生活に必要なパソコンの操作方法を学びます。具体的には、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションソフト、電子メール、学内SNS（学内専用のコミュニケーションサイト）の使い方を習得します。

また、ネット社会において適切な情報活用・発信能力を習得することを目的として、インターネットを利用した情報検索と情報発信の方法とマナー（著作権・ネチケット）について学びます。

#### ■ライフデザイン科目の目標と科目

【目標】ライフデザイン科目は、学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目標とする。

【科目】大学と人生／ライフデザイン特別講義／キャリアデザイン／プロジェクト学習

### 授業紹介④ 「大学と人生」

本学は、平和・自由・進歩の三本柱を建学の精神とし、国際舞台で活躍できる人材の育成を教育の理念として掲げて開学しました。この基本精神と基本理念を学生に周知徹底し、本学の学生としてのアイデンティティを確立するためには、学長担当の講義を提供する必要があるとして、「大学と人生」と題する科目を全学必修として開設することにしました。そのためには本学の誕生のみならず、国内外の大学の生成発展の歴史を概観し、大学教育の果たしてきた役割について論じ、大学生としての自覚と使命を認識してもらうことが必要です。

具体的には、社会で活躍している人生経験および国際性豊かな先輩をお招きし、自分が受けた大学教育とその後の人生との関りについて講義してもらい、学生にどのような学生生活を送るべきか、またどのような人生を送るべきかについて深く考えてもらう機会をもってもらうことを目指しています。

#### ■思想と論理科目の目標と科目

【目標】思想と論理科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、批判的～論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目標とする。

【科目】人間と環境／生命と倫理／科学入門／論理学／思想と論理特別講義

#### ■沖縄理解科目の目標と科目

【目標】沖縄理解科目は、自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目標とする。

【科目】沖縄学／沖縄の自然／沖縄の言語／沖縄理解特別講義

## ■健康スポーツ科目の目標と科目

【目標】健康スポーツ科目は、健康～体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目標とする。

【科目】体育実技Ⅰ／体育実技Ⅱ／健康・スポーツ科学／健康スポーツ特別講義／健康スポーツ特別実技

## 共通選択科目

【共通選択科目の目標】共通選択科目は、ひとつの視点にとらわれることなく、人間存在の成り立ちを基本から考察し、平和の価値についての理解を深め、目的実現のために主体的に行動し、国際化社会の中で問題解決能力を養うことを目標とする。

## ■外国語科目の目標と科目

【目標】外国語科目は、グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目標とする。

【科目】ベーシック・イングリッシュ／イングリッシュ・コミュニケーション／ドイツ語Ⅰ／ドイツ語Ⅱ／フランス語Ⅰ／フランス語Ⅱ／スペイン語Ⅰ／スペイン語Ⅱ／ポルトガル語Ⅰ／ポルトガル語Ⅱ／中国語Ⅰ／中国語Ⅱ／韓国語Ⅰ／韓国語Ⅱ／タイ語Ⅰ／タイ語Ⅱ／外国語特別講義Ⅰ／外国語特別講義Ⅱ／アカデミック英語基礎／プラクティカル・イングリッシュⅠ／プラクティカル・イングリッシュⅡ／ビジネス英語Ⅰ／ビジネス英語Ⅱ

### 授業紹介⑤ 「ベーシック・イングリッシュ」

「ベーシック・イングリッシュ」は1年次必修外国語科目で、英語を運用する「イングリッシュ・コミュニケーション」科目とは異なり、次の教育目標を持ちます。レベルに応じて言語使用の場面での目的を達成する文法や頻度の高い語彙を学習します。さらに、意味の区切れを理解し、英語の音声の特性に合った基本的な音読ができるようになります。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解することにより自立した英語学習者になることを目標としています。

本学における「ベーシック・イングリッシュ」は、プレイスメントテストにより習熟度クラス分けを行い、全学（国際学群、スポーツ健康学科、看護学科）で共通のテキストを使用します。共通の指導体制として、文法のクイズをレベル別に全クラスで実施し、形成的評価を重視します。英語の専任教員と非常勤教員が定期的に会合を開き、カリキュラムや学生指導の把握を常に行っています。

## ■国際理解科目の目標と科目

【目標】国際理解科目は、グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目標とする。

【科目】国際学入門／異文化接触論／国際社会と日本／人権と平和／国際コミュニケーション論／海外スタディツアー／国際理解特別講義

■人文科学科目の目標と科目

【目標】人文科学科目は、人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目標とする。

【科目】音楽の歴史と鑑賞／美術の歴史と鑑賞／哲学／心理学／歴史学／教育学／ヒューマンケアリング／文学／人文科学特別講義

■社会科学科目の目標と科目

【目標】社会科学科目は、様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目標とする。

【科目】法学／憲法／政治学／経済学／経営学／社会学／人文地理学／社会科学特別講義

■自然科学科目の目標と科目

【目標】自然科学科目は、自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目標とする。

【科目】数学／統計学／物理学／化学／生物学／地学／情報科学と社会／自然科学特別講義

(3) 教養教育科目の概要

教養教育科目

科目区分	授業科目名	講義等の内容
共通コア科目	アカデミックスキル	
	教養演習Ⅰ	この授業科目は、本学における学習者としての基本的な心がまえや学習方法、教職員間・学生間の人的ネットワークを構築することを目的とする。大学において学ぶとは何かを探求するとともにアカデミックスキルの獲得を図る。ディスカッションでの授業をすすめるため少人数グループ学習を導入し、個別の学習支援、指導を行う。また、成果発表を通してプレゼンテーションスキルの修得を図るための学習をすすめる。
	教養演習Ⅱ	この授業科目は、教養演習Ⅰやアカデミックライティング、コンピュータ・リテラシー等で修得した知識や技術をもとに、書籍や文献を詳読し、レポートを作成する。本演習では、幅広い知識から一つのテーマをより深めるという学習方法を身につける。少人数グループ学習を基本とし、論理力、批判力、統合力の育成、さらに成果発表を通してプレゼンテーションスキルの修得を図るための学習をすすめる。
	コンピュータ・リテラシー	高度情報化社会で不可欠なコンピュータの基本操作について学ぶ。具体的には、ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーションソフト、電子メール、学内 SNS の使い方を習得する。また、ネット社会において適切な情報活用・発信能力を習得することを目的とし、インターネットを利用した情報検索と情報発信の方法と作法（著作権・ネチケット）について学ぶ。

科目区分	授業科目名	講義等の内容	
共通コア科目	アカデミックスキル	アカデミックライティングⅠ	大学では、専門書やフィールドワークなどで得た事実や知識、概念を根拠に基づいて論理的・科学的にまとめることが要求される。そのためには多様な情報源から必要である的確な情報・知識を、論旨をふまえて取捨選択する能力が必要不可欠となる。そこで本講義をとおしてアカデミックライティングに必要な基礎的能力を身につける。
		アカデミックライティングⅡ	この授業科目では、論文作成の基礎的能力の獲得を目指したアカデミックライティングⅠを受け、より応用可能なライティング技能の獲得を目的とする。文献研究と実証研究の性質の差を理解しつつ、テーマ選択の方法、情報収集及びその整理法、また資料の読解法を学ぶ。学生個々の興味に添った論文作成の手順の習得を目指す。
		アカデミックスキル特別講義	大学生活に適應し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得することを目的にアカデミックスキル特別講義を開設する。
	ライフデザイン	大学と人生	世界のグローバル化が進む中、大学の位置づけも変化しつつある。諸外国を含めた大学の歴史的・文化的な変遷を踏まえた上で、日本の大学の現状と課題を整理し、地域社会における大学の使命と役割を展望する。その際、名桜大学の建学の理念および教育目標について理解を深める。さらに先人の人生開拓の歩みから学び、自らの人生と社会的な役割について考え、名桜大学生として学ぶ意識を高めることをめざす。
		ライフデザイン特別講義	学生が主体性と創造性を持ち、大学で学ぶことの意義を理解し、生涯の生活設計を描き、実現するために必要な知識や方法を修得することを目的にライフデザイン特別講義を開設する。
		キャリアデザイン	「キャリア」という言葉を理解した上で、卒業後の進路や卒業選択に向けた社会認識・自己分析を積極的に行い、キャリアを意識した学習活動、学生生活、人生設計の大切さを理解し、実践する。さらに社会が求めるコミュニケーション力など実践的なスキルの必要性や現在の日本の労働環境と労働者の権利・義務などへの理解も深める。
		プロジェクト学習	本授業では、学生自らが地域社会に根差した課題・問題を解決していく中で、生活設計に必要な主体性、創造性、計画性を獲得することを目指す。そのため、この授業では正解のある課題は与えられない。専攻や学科の壁を超えて集まった学生たちが、チームワークを発揮しながら、モノづくり、システムづくりなどの解決策を提案する。
	思想と論理	人間と環境	21世紀は「環境の世紀」である。持続可能な地球、それを可能にする人間活動のあり方が問われている。環境問題は、地球温暖化問題や人口と食糧問題などグローバルな課題であると同時に、ゴミ問題や地域資源の保全などローカルな課題でもある。この授業科目では、グローバルとローカルの双方の視点から、人間と環境の関係について学ぶ。

科目区分	授業科目名	講義等の内容
思想と論理	生命と倫理	この授業科目では、生命にかかわる倫理的諸問題を理解し、問題の所在を多面的に検討することを通して、最終的には健康科学・医療福祉に携わる者となった場合、あるいは一社会人として倫理的価値判断を行うことのできる見識を身につける。
	科学入門	この授業科目は、普遍的な法則を見つけ出し、明瞭な思考の道筋を立て、自分で考え・判断する姿勢を養うとともに、科学的な手法としての理論的な考え方を紹介し、科学の対象を明らかにしながら、各テーマに対しての真偽（真理）の決定（探求）までのプロセスを学ぶ。
	論理学	科学とは共通理解の事柄から未知の世界を共通の方法で論理的に考え、新しい法則や真理を発見する知的作用である。学問を探究する大学において、また、実社会においても、論理的な思考・発想、および説明を訓練することは大学の授業・報告・論文作成には欠かせない。本講義では、論理的思考について形式論理学を中心に学ぶ。
	思想と論理特別講義	ひとつの視点にとらわれることなく、批判的～論理的に思考し分析して、俯瞰的に問題を解決する能力を培うことを目的に思想と論理特別講義を開設する。
共通コア科目	沖縄学	沖縄に関する地理、歴史、文化、社会などについて、毎週、その分野の専門家を招聘して講義が展開される。沖縄について総合的かつ多角的な視点にたち学ぶことによって、地域の独自性と普遍性がどのように形成され、また現在の沖縄の有り様とどのように関連しているかを学ぶことを目的とする。この授業科目を通じて、学生は国際教養人の尺度の基盤を形成することができる。
	沖縄の自然	沖縄の自然は、その地理的位置と地史および島嶼性から、さまざまな特徴を有し、それが「おきなわ」の風土と人々の気質を育んできた。「おきなわ」を理解するには、その背景である自然の特徴と現状を深く理解することが有益である。その上で、エコツーリズムの望ましい形での発展が必要である。この授業科目では、以上を念頭におき、主に生物と生物群集を対象にして沖縄の自然を解説し共に考える。
	沖縄の言語	この授業科目では、身近すぎて普段はほとんど意識しない沖縄の言語の中にあるルールについて概説し理解を深める。さらに、沖縄の言語を通して見えてくるものの見方、考え方について言語学の面から検討する。その結果、方言が単なる風変わりな珍奇なことばではなく、その地域の文化・社会を色濃く映したとても貴重で大切な継承発展させていくべき文化であることへの理解も深める。
	沖縄理解特別講義	自らが生活する沖縄の歴史、文化、社会、自然を理解し、国際人として情報を発信できる能力を養うことを目的に沖縄理解特別講義を開設する。



科目区分	授業科目名	講義等の内容	
健康スポーツ	体育実技Ⅰ	この授業科目は、スポーツの持つ楽しさや達成感を味わいながら、ラケット型スポーツやアクアエクササイズを通してのコミュニケーションと仲間づくりを目標としている。さらに、運動の大切さや効果を認識することで、生涯スポーツとしての意識を養う。	
	体育実技Ⅱ	この授業科目は、チーム型スポーツを通して、体力やコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。さらに、個人練習、チーム練習、ゲーム等を通じて、純粋にスポーツを楽しみながら、仲間との協応性を高めていく。	
	健康・スポーツ科学	現代における社会環境の変化として、少子高齢化、自由時間の増大、労働環境のオートメーション化とコンピュータ化、運動不足、過食や偏食などがある。これら健康の維持・増進を脅かす諸問題に対処するため、自らの身体に興味を持ち、健康やスポーツについて科学的に理解できるよう「体力」「運動」「健康」の各分野からアプローチし解説する。	
	健康スポーツ特別講義	健康～体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目的として健康スポーツ特別講義を開設する。	
	健康スポーツ特別実技	健康～体力を増進するための健康科学に関する知識やその実践能力を獲得し、精神的及び身体的にバランスのとれた人間性を有する人材の育成を目的として健康スポーツ特別実技を開設する。	
共通選択科目	外国語	ベーシック・イングリッシュ	学習者のレベルに応じて、実際の使用場面に配慮しながら、言語使用の機能の達成を考慮した文法や、頻度の高い語彙を学習する。意味の区切りを理解し、英語の音声の特性にあった音読ができるようになる。英語で講義を理解したり、メモと取ったりするリスニングの基礎力と英語で専門書や説明書等を読解するリーディング力の基礎を養う。異文化理解や、理解する喜び、積極的な参加、英語の有用性などを理解し、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。
		イングリッシュ・コミュニケーション	学習者のレベルに応じて、実際の言語使用場面に配慮しながら、語彙や文法、英語独特の音声体系の習得に基づいて口頭コミュニケーション能力と英作文を学習する。特に、論文やグループディスカッション等を英語でプレゼンテーションできる口頭コミュニケーション能力の基礎を養う。さらに、論文の要約や口頭プレゼンテーションのアウトライン等を英語で書く英作文の基礎を養う。異文化理解のみならず、自国や身近な地域の情報を発信でき、積極的にコミュニケーションストラテジーを用いて意思疎通を図り、生涯、英語を学習し続ける自立した英語学習者になる態度を養う。

科目区分	授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	外国語	ドイツ語Ⅰ ドイツ語の綴りと発音、基本的文構造について、すぐにでも使えるような会話表現を通して説明し、徹底的な口頭練習を取り入れて熟達させる。また、ドイツ事情を話しながら、ドイツ語の単語を紹介していく。これは、文化を教えることで、その言語にさらに親しみを持ってもらうためである。何かを説明する際には、できるだけ身近な外国語である英語を念頭に置き、両言語を比較・対照することによって、ドイツ語の像をよりはっきりさせる。
		ドイツ語Ⅱ ドイツの歴史や地理、人々の生活についての全般的な知識も学ぶ。またドイツ語を積極的に発音する練習をし、ドイツ語に慣れていく。
		フランス語Ⅰ フランス語の初心者を対象とする。アルファベットと発音の基礎から学び、当言語を理解するために必要な文法事項を解説していくと共に、反復練習を行う。またフランスやフランス語圏の文化・芸術・音楽の紹介、映画鑑賞等を予定している。
		フランス語Ⅱ AV 機器を活用しながら、《聞く・話す》の習熟をはかる、外国語としてのフランス語。日本語や英語との異同・文化背景の相違に着目する。
		スペイン語Ⅰ 講義は初心者を対象とし、その実施に向けては、一般動詞の導入までを学習の達成目標にかかげる。授業計画には、アルファベットの読み方、単語を音節に分ける方法、アクセントの位置に関する法則、冠詞を含めた形容詞、SER 動詞と ESTAR 動詞の使い分け、一般動詞の導入、といった学習項目を盛り込み、受講生に対して外国語学習に不可欠な基本四技能の初歩的訓練を行う。講義では、折に触れて、スペイン語を育んだイベリア半島の重層複合文化の諸相について紹介する。
		スペイン語Ⅱ 講義はスペイン語Ⅰを履修した学生を対象に提供される。授業では、主として目的格人称代名詞、不規則動詞、Gustar 型動詞、数詞、天候表現、日付の表現、感嘆表現、再帰動詞、命令形などについて学び、基本四技能のさらなる向上を促す。折々には、スペイン語Ⅰと同様に、イベリア半島の重層複合文化の魅力について紹介する。
		ポルトガル語Ⅰ 現在、地球上の約 6、500 語あると言われる言語の中で、ポルトガル語は「母国語としての人数」からすると世界で第 6 番目の言語である。これはロシア語（第 7 番目）、ドイツ語（第 9 番目）それにフランス語（第 13 番目）と比べてみても以外と多く、1 億 7、000 万人のスピーカーを持つ。この話し手の内、そのほとんどは南米ブラジルのポルトガル語を母語とするブラジル人である。ポルトガル語Ⅰでは、会話を中心にスキットを交えながらブラジルで日常良く使われる表現を用い、ポルトガル語の発音の特徴である鼻母音の発音に注意しながら進めていく。

科目区分	授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	ポルトガル語Ⅱ	ポルトガル語Ⅱは、ポルトガル語Ⅰの会話中心の授業から文法を重要視した授業へと発展させていく。具体的には、-ar、-er、-ir 動詞の活用の説明から始め、ser、estar 動詞の変化を解説する。また、時制の概念では点過去と線過去の違いを理解させる。その後、未来の時制へと発展させ直説法までを視野に入れる。加えて、ブラジル事情にも言及し、ブラジルの5つの地域を概説しカーニヴァル、サッカーなどの国民統合にも寄与したブラジル文化についても説明したい。
	中国語Ⅰ	中国語入門の基礎である声調をしっかりと練習する。次に発音練習に入っていくが、中国語には日本語にはない発音がいくつかあるので、それを単語・文章の中に入れて練習する。中国語の発音は難しいとよく言われるが、それは日本語に存在しない発音がよくあるからである。練習を重ねることによって、正しい中国語らしい発音ができるように訓練する。現代中国語の社会情勢に対しても興味を持つように数回のレポートを課す。
	中国語Ⅱ	①「中国語Ⅰ」でマスターした基本を更に一歩前進させる。②「中国語Ⅱ」は、中国語検定準4級に合格することを目標とする。「中国語Ⅰ」で基本をしっかりとマスター出来ていれば、おもしろい程の進歩を実感するはずである。ボキャブラリーを出来るだけ覚えて、短文の作文練習を重ねる。③前半は「中国語検定準4級」の過去問題20回分を学ぶ。④中国映画を鑑賞して、自然の会話の中から理解できる言葉を探し出す。
	韓国語Ⅰ	日本語母語話者が外国語として韓国語を学習するという視点に立ち、両言語の共通点と相違点に注意しながら授業を進める。主として文字と発音、助詞の使い分け、名詞文の肯定形と否定形、疑問形などを学習し、韓国語の読み書きは勿論、基礎的文章の構造が理解できる力を身につけることを目標とする。
	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰに引き続き、韓国語の基礎的文章の理解と文の組み立てに重点をおいて授業を進める。主に数詞、用言の過去形や敬語形、否定形などの学習を通じ、表現に幅を利かせながら韓国語の理解をさらに深めていく。かくして、語彙力の増加とともに基礎的な日常会話ができるようなレベルを目指していく。
	タイ語Ⅰ	タイ語の音声組織、文法の原理、基本的な表現、表記法を学ぶ。タイ語は複雑な音声組織を持ち、これまで触れてきた外国語とは全く異なる原理を持つ言語である。今まで英語やフランス語などが修得出来なかった学生には特に勧めたい。学習を通じて言語というシステムの多様性に気付いてもらいたい。

科目区分	授業科目名	講義等の内容
共通選択科目 外国語	タイ語Ⅱ	タイ語の音声組織、文法の原理、基本的な表現、表記法を学ぶ。タイ語はこれまで触れてきた外国語とは全く異なる原理を持つ言語である。タイ語Ⅰで学習した「発音、文法、表記、基本表現を修得している」ということを履修の条件として、さらに表現を発展させ、その後、講読と作文を通じて表現力の充実をめざす。
	外国語特別講義Ⅰ	グローバル化する社会の中で、外国語を理解し、異文化理解やコミュニケーション能力を身につけ情報を発信できる基礎的な学力の修得を目的として外国語特別講義を開設する。
	外国語特別講義Ⅱ	「外国語特別講義Ⅰ」の学習を発展する内容で、異文化理解に基づき、様々なトピックについて外国語で理解し、身近なことのみならず抽象的な考えや情報も外国語で発信できる能力や態度を身に着ける。
	アカデミック 英語基礎	英語による講義で基礎的に必要なノートテイキングや専門文献読解、要旨作成、簡単な口頭発表やグループディスカッションなどを学習する。3年次や4年次で取り組む卒業論文や専門書を英語で学習できる基礎的な知識や能力を養う。さらに、各専門分野に共通した英語論文の検索方法、APA や MLA などの代表的な英語学術論文の基礎的な作成ルールを理解、英語圏の大学における剽窃 (plagiarism) や批判的思考などについて学ぶ。
	プラクティカル・ イングリッシュⅠ	近年、TOEIC (Test of English for International Communication) に対する関心、必要性がますます高まっている。この授業ではその試験対策として、学生のリスニング、リーディング、文法、さらに strategies (方略) などの力を伸ばしていきたい。TOEIC スコアは 400 点台 (990 点満点) の後半を目指す。毎授業毎に、ミニ模擬試験を行い TOEIC の形式に慣れていく。
	プラクティカル・ イングリッシュⅡ	実用英語技能英語検定試験 2 級の資格取得を目的とし、単語、熟語、英文法、読解、リスニングトレーニングなどの語学向上を中心とした授業を行う。過去問題や、練習問題、eラーニングを通して、総合的な英語能力を身につける。
	ビジネス英語Ⅰ	将来の多様なビジネスの場で必要とされる最低限の英語力の育成を主眼とする。職業の場面は勿論のこと、大学院や海外の仕事場での活躍を夢見ている学生にも必要な基礎である。社内や対外的な事務処理などを含めてオフィスで役立つ会話力と文章力を養うためにリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの四技能に渡って学ぶ。
	ビジネス英語Ⅱ	英語の基礎学力の上に自分の選んだ仕事のシーンに即した最低必要限と思われる英語のノウハウを身につける。国際ビジネスの実際的な知識を身につける。英語のリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの四技能に渡って学ぶ。さらに、専攻分野における英語力アップビジネスの場に限らず基本的読解力、文章表現力、音声的表現力、判断力を等しく育みたい。

科目区分	授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	国際学入門	日本人の食料の約70%は海外からの輸入依存しているように私たちの暮らしは世界中の国々や人々との関係から成り立っている。しかし、その相互関連性については、意識しなければなかなか分からない。この講座では、私たちと世界との関係について、国内の社会、政治、法、組織と国際社会などの比較から考え、ますます関係が深まり、複雑化する現代社会において国際人および専門科目への方向性を学ぶ。
	異文化接触論	異文化とは、「異なる分類体系を持つ文化」を意味する。異文化の理解には異なる分類体系の理解が欠かせない。本講義では構造主義人類学の観点から講義する。特に言葉と人間の関係について観光ではなかなか接することのできない「深い観察」ができるように導く。構造主義の考え方は大学生が避けては通れない「思想の科学」であるのでぜひ挑戦してもらいたい。構造主義人類学により現代のさまざまな問題に対し、新たな観点から問題の本質に接近できる。
	国際社会と日本	国際社会と日本の相互関係の歴史を学び、現在の国際問題に日本はどのように対応しているか、また国際社会は日本に何を期待しているかを考察する。明治維新とヨーロッパ外交、戦後の連合軍占領と復興時の対米外交、国連加盟と国際外交、戦後の対アジア外交などを内容とする。今後、自立外交をいかに樹立するかを考察する。
	人権と平和	18世紀後半に誕生した“人権”や、二度の大戦を経て培われた“平和”は、21世紀の現在、時代や国家のあり方を越え、その普遍的価値を国際社会に享有させるに至っている。しかし、“人権”保障や“平和”確保をめぐる国内外の状況には依然厳しいものがあることも看過してはならない。本科目は、わが国の内外で生じている“人権”や“平和”の問題を素材とし、徹底的に“人権”と“平和”について真剣に考える機会とする。
	国際コミュニケーション論	国際社会がボーダーレス、相互依存の時代に入り、異国と異国の人々を理解することは時代の要請になっている。その道具としての国際コミュニケーションを学ぶ。コミュニケーションの理論、産業、実情、課題について学び、電子コミュニケーションなど新しい手段の弊害を理解し、いかに活用するかを学んでいく。
	海外スタディツアー	海外の言語・文化、社会制度、産業等を理解するためには、現地を訪問することが最も効果的である。本授業では、主に海外経験の無い学生を対象に、アジア地域を中心とした海外スタディツアーを行い、多様な価値観や考えを理解し、海外でも主体的に行動ができる資質を身につける。
	国際理解特別講義	グローバル化、情報化する社会の中で、多様な価値観や考えを理解し、主体的に行動できる資質を身につけることを目的として国際理解特別講義を開設する。

科目区分	授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	音楽の歴史と鑑賞	<p>ただ単に音楽史のみを扱うのではなく、大きな波としての歴史のうねりと変遷から説き起こし、社会の大枠が変わるから音楽もそれにつれて変わらざるを得ないと言う事をよく理解して貰う。</p> <p>そして、時代ごと、地域ごとに色々な音楽があり、其れが又、時代の思潮や哲学、価値観や生活と密接に繋がっていると言う事も知って貰う。</p>
	美術の歴史と鑑賞	<p>芸術様式と文化的背景を学ぶ。授業では、古代から現代までの芸術作品を通して、創造的意欲の源泉、創造物と文化との関わりについて理解を深めていく。受講生は、講義やスライド・ビデオを通して多くの芸術家や彼らの作品にふれるだけではなく、芸術的経験を広げる為にも、自分で何らかの創作をする。</p>
	哲学	<p>数学、物理学、医学等はその名前を聞いただけで、何を研究する学問であるかは一目瞭然であるが「哲学」はそうではない。その為「哲学は人生の役に立つのか」という疑問が投げかけられる。しかし、我々は生きてい中で「生き甲斐のない人生は、意味がない」「正義のためには死をもいとわない」といったさまざまな考え方に出会う。そして「本当はどうなっているのか」と気になり、考え始めたとき「哲学」は始まる。その為「哲学」は自らするしかないのである。この講義は、過去の哲学者がそれらの問題をどのように考えてきたかを紹介しながら学生自ら「哲学する」ことを学んでいく。</p>
	心理学	<p>行動科学としての心理学の知見を紹介する。心理学の研究法や基礎的な理論に触れながら、現代の心理学が「こころ」に関わる問題にどのように取り組んでいるかをみていく。特に自己認知・発達・性格・記憶・学習・欲求など「個人」をめぐる課題に焦点をあて、自己および他者理解を目指した学習をおこなう。</p>
	歴史学	<p>歴史のとらえ方を学び、現代文明の成り立ちについて深く理解することは、いかに生きるかを考える上で大いに役立つ。たんに過去の人物や事件の紹介ではなく、人・物・環境が有機的に関連し、歴史のドラマが繰り広げられてきたことを概観する。前半は様々なテーマを取り上げて、歴史を学ぶことの楽しみを知ってもらい、後半は東アジアの歴史を海の視点から描写してゆく。</p>
	教育学	<p>「教育」という営みを通し、人間を「成長し続ける存在」として捉え、研究していく。学校、地域、家庭、社会、産業などの領域において人間が「成長し続ける存在」であるために必要な教育の理論や目的、指導方法などを学び、21世紀市民の教養としての「教育学」の在り方を考える。</p>
	ヒューマンケアリング	<p>この科目は、人間が誕生してから死を迎えるまでどのように生きるのか、大学生に人間の健康を考える場を提供する。赤ちゃんの誕生から子どもの成長発達、そして青年期の健康問題や職業生活での健康、家族の中における健康、高齢者の生活や死を見つめて生きる終末期の人々への健康に対するケアの方法やケアリングについて学習する。</p>

科目区分	授業科目名	講義等の内容
人文科学	文学	文学は、各時代の社会や文化を背景に生まれ、その時代あるいは時代を超えて享受されてきた言語芸術である。文学からは人間にとって根源的なテーマを学び取ることができ、多様化が進む現代を生きる我々にこそ必要な学問領域となる。また、真の国際的教養人となるには、日本（人）とは何か、という問いに自分なりの考えを提示できることが要請される。この授業では、日本の古典から現代までの代表的な作品を取り上げ、各作品がもつ時代性と普遍性の内実を読み解く。
	人文科学特別講義	人間と文化の歴史及び人間としてのあり方や生き方を理解し、知性と感性のバランスのとれた円満な人格を形成する上で必要な知識を身につけることを目的に人文科学特別講義を開設する。
共通選択科目 社会科学	法学	日常生活に見受けられる法現象（例えば、新聞やテレビ等で取り上げられる法に関する話題等）を主たる素材として、我が国の主要な法制度に関する基礎について学習する。具体的な講義内容としては、“法の一生(法の誕生から消滅まで；立法過程・法執行(行政)過程・裁判制度)について” や、法の本質やその解釈、様々な観点(公法・私法、国内法・国際法、手続法・実体法等)から分類しうる我が国の主たる法体系を概説する。
	憲法	日常生活(特に沖縄)に見られる憲法現象(新聞やテレビで取り上げられる憲法に関する話題)を主たる素材として、日本国憲法のしくみや基本原理(近代立憲主義や人権論を中心に)について学習する。特に、IT 技術の発達に伴い、便利さが追求される傾向にある現代社会にあっても、依然として大事にされ続けられなければならない「人間(個人)の価値」や、人間(個人)と関わる社会や国家のあり方等について考察を深める。
	政治学	政治学における基礎的な概念や理論、方法論などを紹介する。まず政治学の発達とその過程で常に直面する価値観の課題、すなわち主観と客観の間を揺れ動きながら発達してきたことを概説する。現代政治の特性、国内外の政治体系を構成する議会や官僚、政党、利益団体などを解明し、政治に関心を持ち、究明する能力を育てる。
	経済学	経済のグローバル化、高度情報化(IT 革命)の急速な進展の中で社会を取り巻く環境は大きく変化している。そうした複雑な社会・経済的状况を理解するために経済学の基本的概念である市場メカニズムを中心に、経済システムの持つ意味と限界(「市場の失敗」)について考察する。
	経営学	この講義は、企業の経営・戦略とは何か、社会経済の中における企業の果たす役割は何かといった基本的な問題・課題について、実態と理論を学んでいくことを主な目的とする。そのため広範囲にわたって講義を進めていくが、企業とは何かという根本的な点を理解してもらいたい。
	社会学	社会学やその他の社会科学への導入・基礎として位置付けられる。社会学や人類学の基礎概念・理論を通して、私達が直面する様々な社会現象・問題を考察していく。キーワードは「グローバリゼーション」と「市民社会」。

科目区分	授業科目名	講義等の内容	
共通選択科目	社会科学	人文地理学	人文地理学的センス・理解は私たちの日常生活と深く関わっている。また、現代・日本・世界を理解するうえにも、人文地理学は有効である。「阪神・淡路大震災」「地球温暖化」「商業戦争」「華人社会」など 34 のキーワード（テーマ）を中心に、テキストを素材とし、また広げながら現代の日本と世界の諸事象・データを人文地理学的に分析・理解するセンスと方法を身につけることを目標において授業を展開する。
		社会科学特別講義	様々な角度から社会のしくみを理解し、社会の一員であることの自覚と責任感を持ち生きていく力を涵養することを目的に社会科学特別講義を開設する。
	自然科学	数学	この科目では、問題解決に数学を活用する意欲や態度、能力を高め、数学的思考力を身に付けることを目標とする。そのために必要な数学的知識・技能を主体的に習得するとともに、数学と人間・社会・文化とのつながりを学習し、数学の文化的・教養的価値や数学の有用性、論理性などを味わい数学的素養を身に付ける。
		統計学	統計学とは、標本データを基に母集団を推定・推測するための科学である。そのために必要なことは、統計的な考え方であり、計算技術そのものではない。この授業では、主に正規分布を中心に、標本値からの母数の推定や検定の仕方を、統計的な考え方に重点を置いて考察する。
		物理学	私達が日常身近に体験する現象から、日常概念では説明しがたい不思議な現象まで、自然界に起こる現象は多様である。原子レベルのミクロな現象から宇宙レベルのマクロな現象まで、物理法則は様々である。しかし、これらの法則もより基本的な法則から説明（演繹）できることが多く、より基本的な法則を探究することが物理学の醍醐味である。本講義では、これらのプロセスを通し自然界の理解と科学的な物の見方を身につけていく。
		化学	環境化学、地球化学、および一般化学の学問領域の中で取り上げられる諸事項のうち、基礎的な自然科学に対する本学学生の知識と理解力に鑑みて適切と考えられる範囲の内容を教授する。
		生物学	本講義では、遺伝子の本体である DNA に焦点をあて、遺伝現象や DNA の分子（構造と機能）、遺伝子工学（バイオテクノロジー）、これらの発見や解明に至った過程へも理解を深める。これにより知識だけでなく、科学的なものの見方、物事の進め方（実験の工程、理論の積み上げ方等）についても理解を深める。



科目区分	授業科目名	講義等の内容
共通選択科目	地学	<p>私達の住む地球はどのようにして生まれたのか。宇宙はどのような歴史をたどり進化し、これからどうなっていくのか。最近の観測データをもとに、現在までに分かってきた驚くべき宇宙像について紹介し、私達宇宙の過去・現在・未来像を紹介していく。また、その結論に至るまでの思考プロセスを追いながら、宇宙の進化についての理解を深め、宇宙を支配する法則について学習していく。</p>
	情報科学と社会	<p>まず、情報理論を概観しコンピュータの汎用性について理解する。次に、コンピュータ誕生から社会的普及までの背景を学び、コンピュータの開発に関わった人々の思惑や電子工学の発展がPC誕生にどのように寄与したか理解する。さらに、論理回路、OS、プログラム、アルゴリズム等について学びコンピュータ内部の仕組みを理解する。最後にインターネットの歴史や機能、知的所有権について学び、今後の情報化社会について考察する。</p>
	自然科学特別講義	<p>自然や物の成り立ちについて理解し、論理的に思考する能力を身につけるとともに、情報化する社会に参画する知識を養うことを目的として自然科学特別講義を開設する。</p>